

## 「神奈川大学建築学研究」第2号発刊にあたって

島崎 和司\*

On the publication of the Second Issue of "Reports for Architecture and Building Engineering, Kanagawa University"

Kazushi SHIMAZAKI\*

### 1. ごあいさつ

2022年4月、建築学科はさらなる発展を目指し、建築学部生まれ変わりました。創設以来の教育理念の実現化に向け、新たな教育体制・教育環境に移行するためです。地球環境の悪化による自然災害の増加や人口減少などの社会構造の変化の中で、現代社会はこれまでにない新たな解決すべき課題を抱えています。こうした複雑な課題に対応するためには、これまでの建築技術者ではなく、人間愛に溢れ、かつ、学際的な豊かな知識と教養を兼ね備えた“建築専門家”が求められているのです。それは、まさに本学建築学部の教育理念に則した人材そのものなのです。本学建築学部では、建築とは、「さまざまな機能（使われ方）と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ空間や形態・環境を創造すること」を目的とした活動と考えています。そのため、建築を学ぶことは、人間とその営み（社会・経済・文化など）から科学や技術まで、極めて幅の広い分野を学ぶことになります。その学びの成果を集めたものが、この「神奈川大学建築学研究」と思っています。

### 2. 建築学研究所による研究の推進

研究所が推進する研究には以下の3つがあります。

- (1) 建築学科教育・研究費重点配分採択研究（以下、学科内重点配分）
- (2) 研究所研究
- (3) 文科省科学研究費補助金の間接経費を原資とする研究（以下、間接経費）

学外から客員教授、客員研究員、特別研究員を採用してこれらの一層の研究の推進を図ることができます。2023年度に入って規定が整備され、募集、審査、採択が行なわれました。その成果は、第1号に報告されています。

内田初代所長により文科省科学研究費補助金の間接経費の一部を用いて研究助成を行う制度が創設され、全学に広がりました。建築学研究所では、2022年9月に初めて募集され、10月に審査・採

択され、その成果は、第1号に報告されています。研究費利用は間接経費の利用範囲内にとどまりますが、有効な研究助成といえます。今年度の成果は、今年度に報告されることとなります。

### 3. 建築学研究第2号の発刊について

建築の助成を受けた研究における研究成果の発表として2023年度に初めて『建築学研究』第1号が発行され、2024年度に第2号が発行されることになりました。上記の研究助成のうち、学科内重点配分4件と間接経費による研究4件、2023年度国際青少年サイエンス交流事業（北京交通大学）実施報告について、その成果をまとめました。また、第1号と同じく工学部通信にならって、2023年度の研究所員の研究活動、講演会開催記録、博士論文・修士論文・卒業論文テーマ一覧も掲載しました。

### 4. 今後の建築学研究所

研究所内には神奈川大学建築学研究所建築設計事務所を置くことができる、と規定されています。第1号にも書かれていますが、こちらはまだ運用段階にありません。来年度こそ、これを実現し、他にも課題はありますが、建築学部の発展に寄与してもらいたいものです。

---

\*教授 建築学部長  
Professor, Dean, Dept. of Architecture and Building Engineering